

【お知らせ】表層地盤の増幅率 G_s の評価について

令和3年3月
JSCA 関西支部
木造住宅レビュー委員会

木造住宅では敷地内における詳細な地盤調査が行われない場合が多く、表層の地盤種別を第二種地盤として簡略法により表層地盤の増幅率(以下 G_s と略す)を算定するのが一般的だが、第二種地盤とした場合に地表面での加速度応答スペクトルが過大となることがある。そこで、2006年4月から精算法で算定した G_s マップを「伝統的な木造軸組を主体とした木造住宅・建築物の耐震性能評価・耐震補強マニュアル」に掲載してきた。この G_s マップの基になっている表層地盤データは、1995年7月に設置された地震調査研究推進本部が1kmメッシュで作成したものである。

防災科学技術研究所では公開システム「地震ハザードステーション J-SHIS」を開発し、地震調査研究推進本部が作成したデータの公開を2005年5月から開始し、その後、新たな地図情報の配信技術を取り入れ250mメッシュにデータを整備し、2009年7月から新たなデータを公開している。

2005年5月に公開されたデータと2009年7月に公開されたデータには差異があり、2009年7月のデータの方が G_s を大きく評価しているため(下図参照)、「伝統的な木造軸組を主体とした木造住宅・建築物の耐震性能評価・耐震補強マニュアル」に示す2つの G_s 評価方法の内、 G_s マップ(精算法)ではなく、J-SHISの30m平均S波速度により表層地盤の地盤種別を判定して、簡略法を用いて G_s を評価する方を推奨する。

